

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域でけん銃や小銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

特に2016年以降、リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり、オリンピック・パラリンピックの終了後から急激に体感治安が悪化している。

- (2) 依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸、幹線道路沿いで発生しており、治安当局もこれらの取締りを強化しているが、健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど、警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

- (3) また、リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に、敵対する麻薬密売組織間抗争が激化するとともに、UPP（リオ州軍警察平和構築部隊）をはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦も頻発しており、流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

- (4) これら課題に対処するため、2018年2月16日以降、大統領令による連邦政府主導の治安対策が試みられ、一定の成果は得られたものの、その根絶には至っていない。

- (5) リオ州政府としても、2019年1月1日に就任した新州知事の主導の下、新設されたりオ州軍警察局及びリオ州文民警察局が中心となり、治安回復に取り組んではいるものの、州の財政難による新規採用枠の縮小や装備・資器材の故障、殉職・離職警察官の増加、組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方、凶悪犯罪が頻発するとともに、麻薬密売組織のファベラにおける既得権益を狙った『ミリシア』と呼ばれる自警団組織と麻薬密売組織間の抗争が激化しつつあり、予断を許さない状況にある。

- (6) また、長引く不況を背景として、リオ市内におけるホームレスの数も数年前と比較して激増しており、麻薬中毒者が街中にい集したり、徘徊するなど、こうした状況が体感治安の悪化に拍車を掛けている一つの要因とも言える。

- (7) 今年に入ってから世界的な新型コロナウイルスの蔓延に伴う外出自粛措置、外国人観光客の受入れ制限等特殊事情を背景として犯罪発生件数は激減したものの、日本と比較すれば依然として高い発生件数を維持しており、さらに今後は、生活費等に窮する者らによる金銭目的の犯罪増加が懸念される。

また、警察介入の際の致死事件については本年1～5月中741件（前年同期比+9）と微増しており、幹線道路付近のファベラにおいて治安当局と犯罪

組織との銃撃戦が発生するなど、付近の一般交通に対して影響を与える事案も発生している。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安統計院（ISP）によれば、2020年1～5月中のリオ州内における殺人事件発生件数は、1,642件で、前年同期と比べて116件減少している。
- (2) また、強盗事件発生件数は、57,554件で、前年同期比-35,296件と大幅に減少したほか、強制性交等や携帯電話機強盗及び窃盗事件などの身近な犯罪も軒並み減少している。
- (3) 上記(1)、(2)とも、新型コロナウイルスの感染拡大と、それに伴う外出自粛措置による一時的な特殊要因によるものと思われ、今後の制限緩和や、長引く経済縮小で困窮者が増加するに従って、これら犯罪発生件数が増加に転じる可能性もあると思われる。
- (4) 第1四半期中、リオ市セントロ地区やコパカバーナ海岸などの観光名所における邦人観光客が被害者となる事件の発生は認知していないが、引き続き、観光名所等における各種犯罪に対する警戒が必要である。
- (5) このほか、麻薬密売組織間抗争を背景として、ファベラ周辺の治安が悪化しており、これまで比較的安全と目されてきたリオ市南部地区も例外ではないことから、細心の注意が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況 2020年（1月～5月）（対前年同期比増減数）

	リオ州	リオ大都市圏
殺人	1,642 (-116)	1,099 (-166)
強制性交等	1,687 (-629)	1,225 (-411)
商業施設強盗	1,442 (-913)	1,227 (-814)
住居侵入強盗	308 (-236)	222 (-182)
車両強盗	12,053 (-6,465)	11,705 (-6,237)
通行人強盗	21,273 (-15,278)	20,185 (-14,349)
交通機関内強盗	4,382 (-3,044)	4,324 (-2,991)
携帯電話強盗	7,723 (-4,279)	7,225 (-3,935)
強盗総数	57,554 (-35,296)	54,739 (-33,385)
窃盗総数	50,844 (-17,045)	42,406 (-13,867)
取扱件数	246,201 (-96,608)	198,244 (-81,097)
※警察介入の際の致死事件	741 (+9)	665 (-12)

4. ZONA SUL 犯罪発生状況 2020年5月（対前年同月比増減数）

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

殺人 1 (-2)

商業施設強盗	8 (-15)
住居侵入強盗	0 (-1)
車両強盗	18 (+2)
通行人強盗	68 (-75)
交通機関内強盗	3 (-32)
携帯電話強盗	24 (-39)
強盗総数	135 (-188)
窃盗総数	212 (-202)

【コパカバーナ地区】

殺人	0 (±0)
商業施設強盗	1 (-21)
住居侵入強盗	1 (±0)
車両強盗	0 (-4)
通行人強盗	6 (-64)
交通機関内強盗	0 (-6)
携帯電話強盗	0 (-25)
強盗総数	9 (-138)
窃盗総数	161 (-346)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	2 (+1)
商業施設強盗	3 (-13)
住居侵入強盗	0 (±0)
車両強盗	3 (+1)
通行人強盗	11 (-69)
交通機関内強盗	1 (-6)
携帯電話強盗	7 (-9)
強盗総数	31 (-110)
窃盗総数	108 (-310)

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）警察官との銃撃戦（ガレオン国際空港付近）

6月17日（水）午前8時頃、リオ市北地方マレ地区（ガレオン国際空港周辺）において、パトロール中の警察官が容疑者を発見し銃撃戦に発展、容疑者1名が負傷するとともに、住民女性1名が巻き添えとなり負傷した。この影響により、ガレオン国際空港からセントロに向かう幹線道路の1つであるブラジル大通りが約30分間通行止めとなった。

6. テロ・爆弾事件発生状況
事件の発生は認知していない。

7. 誘拐・恐喝事件発生状況
邦人被害は認知していない。